

1～2学期の教育評価（教職員・児童生徒）一覽

				1学期		2学期		
				教職員	児童生徒	教職員	児童生徒	
重点努力目標	目指す子どもの姿（評価規準）	学校・職員による具体的な実践内容						
豊かな心の育成（日常の取組部会）	①人権同和教育の充実	自分の人権を守り、他者の人権を守るための実践行動がとれる子ども	相手のことを考えた言葉遣いについての日常指導を徹底する。 人権を確かめあう日を中心としたハートウィークの取組や人権宣言の取組等を学級会で十分な話し合いのもと推進することで、より児童生徒の人権意識の高揚を図る。等		2.9	3.5	2.9	3.8
	②明るく楽しい学級づくり	自己有用感を持ち、クラスの中で自分の考えをもとに発言したり、行動したりできる子ども	帰りの会等で、児童生徒が互いに認め合う場面を設定し継続して取り組む。等		2.5	3.2	2.7	3.3
	③自己有用感を育む児童会・生徒会活動の充実	児童会・生徒会等において、学校の課題解決に向けて具体的な取組とその評価について提案できる子ども	小中それぞれの集会活動や委員会活動等の取組において、生徒が主体的に企画・運営する場面を設定する。また、小中リーダー会議、小中合同委員会、小中合同ふれあいタイム等の異年齢交流活動を児童生徒の参画により推進する。等		3.1	3.4	2.9	3.3
	④道徳教育の充実	お互いに意見を出し合い議論し合うことができる子ども	道徳の時間において、児童生徒が互いに意見を出し合い議論し合う展開を実施する。 道徳の学習を振り返り、自己の変容を確かめるための掲示等の工夫をする。等		2.8	3.3	2.8	3.2
	⑤いじめ・不登校の防止	不安や心配事などを気軽に相談したり、困っている友達に進んで声をかけたりできる子ども	いじめ・不登校防止対策委員会や児童生徒理解の時間を確保し、気になる児童生徒の情報を小中全職員で共有して声かけや見守りを行う体制を整える。 「愛の1・2・3+1運動」を確実に実施する。 どの職員にも日常的に気軽に相談できる取組等を実践する。等		3.1	3.1	3.1	3.4
確かな学力の育成（授業改善部会）	①学力向上やつるプランの実践（熊本型授業の質の向上）	やる気をもって授業に臨む子ども	学力向上に向けた学力検証改善サイクルの確立と諸学力調査の結果の活用による学校総体とした授業改善を全職員で行う。 9年間の学びを見通した学習習慣・学習規律を確立する。等		2.5	3.3	3.1	3.5
	②個や集団に応じたきめ細かな指導の充実	課題解決に粘り強く取り組む子ども	泉スタンダード（授業モデルの共通実践）に取り組み、分ける授業を展開する。 全職員が熊本型授業を基盤とした授業公開（小中連携）を確実に実施する。 勉強でわからない内容があったとき、先生や友達に聞いたり、調べたりするなど理解できるように自分なりに努力をさせる。等		2.6	3.2	2.9	3.2
	③自ら考え、伝え、そして考える力の育成	自分自身の考えを持ち、互いに意見交流等を行う中、考えを深めることができる子ども	発達段階に応じ、9年間を見通した系統的な学び合いの場（ペア、少人数グループ、全体）の工夫を行い授業に組み込む。等		2.8	3.1	2.8	3.4
	④読書活動の推進	目標とする冊数を目指して、進んで読書活動を行う子ども 年間読書目標 小学校低学年 100冊以上 小学校中学年 80冊以上 小学校高学年 60冊以上 中学生 50冊以上	学校図書館と移動図書館を効果的に活用させる。 読み聞かせ交流の実施と委員会活動によるハッピーブック運動の推進を図る。 図書担当職員や学級担任と学校図書館支援員との連携を図り読書活動の楽しさを実感させる。等		2.9	3.2	2.5	3.1

				1学期		2学期		
				教職員	児童生徒	教職員	児童生徒	
重点努力目標	目指す子どもの姿（評価規準）	学校・職員による具体的な実践内容						
健やかな体の育成（日常の取組部会）	①基本的な生活習慣の確立と体力向上	自らの生活習慣や体力の状況を知り、改善に向けて取り組める子ども	児童会・生徒会主体によるあいさつの意義を考えたあいさつ運動を実施する。 継続的な生活習慣チェック（いずみん大作戦）の実施と学級での活用を行う。 朝のランニングやトレーニング指導を実施する。等		2.9	3.2	2.9	3.4
	②健康教育の充実	むし歯の予防や治療を含め、自分の健康管理について考えて改善に取り組める子ども	小中保健委員会による取組（ミニ歯科指導、お茶うがいなど）を実施する。 養護教諭によるブラッシング指導を学級において実施する。 保健だよりによる家庭への啓発を定期的に行う。等		3.1	3.4	2.8	3.6
	③食育の推進	食の大切さを知り、自分自身の食生活について考えることができる子ども	小中給食委員会による取組（朝食キャンペーン、交流給食など）を実施する。 栄養職員による食育講話を実施する。 食物アレルギー対応に関する校内研修を実施する。等		2.5	3.4	2.9	3.6
	④安全教育の徹底	危険を予知し、自らの判断で事故やケガを回避することができる子ども	避難訓練における事前・事後指導等において児童生徒自身が考え、危険を回避できるようになるような指導の工夫を行い実施する。 登下校指導、バスの乗車指導、交通安全指導を地域、保護者、関係職員の連携を図り実施する。等		2.9	3.6	2.8	3.7
	⑤安全・安心で美しい教育環境の整備	無言清掃、トイレのスリッパ並べ、靴のかかと揃え等、美しい環境づくりに自ら取り組む子ども	縦割り班による無言清掃指導を徹底する。 お役に立ち隊等を中心としたボランティア活動を実施する。 委員会の企画立案による校内美化に向けた取組を実施する。等		2.2	3.3	2.5	3.4
地域とともにある学校づくり（ふるさと部会）	①地域連携の強化と充実	ふるさとへの感謝や誇りをあいさつ等の言動で表すことができる子ども	オープンスクールの実施により地域の方や保護者へのあいさつを実践的に学ばせる。 地域ゲストティーチャーの活用を図る。 まちづくり協議会「泉つ子協働部会」と連携したふるさと感を味わう取組の実施等		2.2	3.0	2.7	3.1
	②体験や地域交流活動の推進	体験活動、交流活動に積極的に参加し、交流を楽しむことができる子ども	児童生徒が主体的に関われる体験活動、交流活動への企画実施 八代農業高校泉分校との交流を行う。等		2.2	3.6	2.9	3.6
	③ふるさと感の育成と地域の伝統文化の継承	ふるさとの歴史や産業について理解し、伝統文化に関心をもつ子ども	前期、中期、後期の各段階における総合的な学習の時間「いずみ学」の発信型授業への変換を図る。等		2.1	3.2	3.1	3.4
	④積極的な情報発信	ふるさと泉のよさを語る・伝える行動ができる子ども	テレビ放送等のメディアの積極的な活用による情報発信を行う。 学校ウェブサイトによる情報発信。等		2.2	2.7	2.3	2.8
	⑤見守り活動体制の充実	地域の方に挨拶ができ、感謝の心もち安心して関わることができる子ども	地域の方への挨拶の指導 花のプレゼントなど、地域の方と関わる機会をつくる。等		2.2	3.4	2.6	3.4
小中一貫教育の充実			・施設一体型小中一貫教育校としてしかできない、子どもたちの学びの9カ年を見据えた指導体制ができていないか。		2.8		2.8	
			・少人数の子どもたちへの効果的な指導方法の工夫ができていないか。		2.7		3.0	
			・小学校・中学校の発達段階を大切にた指導体制ができていないか。		3.4	3.4	3.0	3.5